

2015年度 日本臨床検査医学会 臨時社員総会だより

日 時：2015年11月19日（木）16：30～18：00

場 所：長良川国際会議場 1F メインホール（第1会場）

開会に先立ち、名誉会員の石井暢先生（昭和大学医学部名誉教授,享年97歳：2015/10/31）、
功労会員の櫻川信男先生（元 富山医科薬科大,享年81歳：2015/10/31）、
名誉会員の島田信男先生（京都府立医科大学名誉教授,享年1歳：2015/11/4）の逝去を悼み黙禱が
なされた。

続いて村田満理事長より挨拶があり、定款に基づき村田理事長が議長となって、委任状が106通で出席者（約
140名）と合わせ評議員（社員）数（243名）の2分の1以上（122名以上）の出席を満たしており会は成立
することを告げ議事を進行した。

（その他：名誉会員6名、功労会員13名が出席）

Ⅲ. 報告事項

1. 各種委員会活動報告（米山彰子 庶務理事）

2014年度各種委員会活動について、各委員会のまとめが資料として用意され、主なものについて報告された。

1) 学術推進化委員会（委員長：出原賢治、担当理事：藤田清貴）

①平成26・27年度学術推進プロジェクト研究採択課題助成金送金および報告等について

- ・2015年6月25日に、平成27年度の研究費助成金の50万円（3名）、100万円（1名）を採択
グループ代表者に助成金を送金した
- ・2015年の第62回学術集会（岐阜）での中間報告は行わない。ただし、11月末日で中間報告書
の提出は求めることとした。
- ・2016年の第63回学術集会（神戸）で最終報告を実施する。

②今秋の学術集会での委員会で、次期新委員会に引き継ぐ平成28・29年度学術推進プロジェクト
審査を以下のとおり計画し話合う予定である。

2015年11月19日	募集要項に関する委員会内での審議
2015年12月号	臨床病理に掲載
2016年1月7日～2月29日	課題募集
2016年4月～5月	募集課題の新委員会の委員による採点
2016年5月頃	新委員会開催により採択課題の決定
2016年6月	採択研究の開始

2) 編集委員会（委員長：村上正巳、担当理事：横田浩充）

- ①学会誌送付時の同梱に関するアナウンスについて理事会に報告した。
- ②論文投稿時のCOI報告書を策定した。
- ③投稿区分「短報」を新設した。
- ④依頼論文のカラーの図表について制限を設けた。
- ⑤本年度の優秀論文賞候補論文を選出し、学会賞委員会に報告した。
- ⑥会員向け「臨床病理」誌閲覧サービスについて検討を行い、理事会に報告した。

3) 教育委員会（委員長：山田俊幸、担当理事：北島 勲）

第62回学術集会において最終日11月22日午前午後、同一会場で専門医資格更新を睨んだ生涯教育的企画
をたてた。

①RCPC1 11月22日(日) 9:00~10:30

②RCPC2 11月22日(日) 10:30~12:00

③臨床検査医学 catch up セミナー 「今・そしてこれからの臨床検査医学・各論」

11月22日(日) 13:00~16:00

- ・臨床検査のガイドライン2015 -Post 2017に向けて-
- ・感染症検査法の進歩—MALDI-TOF MS と遺伝子検査を中心に—
- ・糖尿病性腎症と臨床検査
- ・甲状腺機能検査の標準化
- ・専門医向け臨床血液学：基礎と最近の動向
- ・非ビタミンK経口凝固阻害薬 (NOAC) の薬理作用と臨床検査

④同集会において「第4回臨床検査を学ぶ若手医師の集い」を企画した。

4) 臨床検査点数委員会 (委員長：東條尚子、担当理事：米山彰子)

①平成28年度診療報酬改定提案書を内保連経由で厚労省に提出した(保険未収載項目1件、既収載項目49件(うち削除項目30件)、共同提案13件)。7月に厚労省によるヒアリングが行われた。

②採血に係るコストの再調査を実施した。45施設の平均コストは656円で、平成22年度調査時526円より上昇していた。結果は日本臨床検査専門医会から提案した血液採取料の増点要望の資料として厚労省に提出した。

5) 学会賞委員会 (委員長：三井田孝、担当理事：安東由喜雄)

7月25日に学会賞委員会が開催された。厳正な審査の結果、学術賞：平山哲氏、検査・技術賞：中出祐介氏、若手研究者奨励賞：増田亜希子氏を候補者とすることが決定した。

優秀論文賞は、編集委員会で推薦された井本しおん氏、千田靖子氏、鍋谷洋介を候補者とすることとなった。後日行われた理事会で、これらの候補者を今年度の学会賞受賞者とすることが承認された。なお、理事会で、上田國寛氏に河合忠賞を授与することが決定した。

6) 標準化委員会 (委員長：日高 洋、担当理事：前川真人)

①日本医師会の調査で最も使用されていた4つのTSH測定試薬で、NIBSC HUMAN 81/565を調整した試料、臨床検査精度管理調査用試料、日常検査の残余血清を測定した。

②結果を今年度の臨床検査医学会と甲状腺学会で発表する予定で、TSH測定値のハーモナイゼーションの試みとして、4試薬の平均値(APTM; all procedure trimmed mean)に各試薬での測定値を変換する式を提供する。

7) 精度管理委員会 (委員長：前川真人、担当理事：山田俊幸)

①2015年度CAPサーベイは、123施設が参加し、2011年度以降漸増している(対前年+4施設; 4施設減かつ8施設増)。遺伝子検査への参加も増えている。

来年度以降に向けて、有用性の高い項目の追加を検討しており、HbA1c、BNP、シクロスポリンを候補項目とする。

②IVDグローバルニュースは表紙のデザイン、内容について、会員にとって更に有用な冊子となるよう議論している。

8) EBLM委員会 (委員長：市原清志、担当理事：小柴賢洋)

本年8月の委員会で次の点を協議した。

①本年学術集会時の教育セミナー：分散分析および重回帰分析の臨床検査医学への応用について開催する。

②次期委員長を年内に本委員会で選任し理事会に推薦する。

③EBLM 一次研究として、パネル血清で測定値の調和化を確保し、多施設共同で症 例別疾患データベースを構築するプロジェクトを実施する。海外 6 カ国 の研究者の協力同意があり、科研費を基盤研究・海外学術調査の形で再度申請する。

9) 倫理委員会（委員長：通山 薫、担当理事：諏訪部章）

- ①去る 5 月 15 日に日本医師会館にて、日本医学会研究倫理委員会・同利益相反委員会・医学雑誌編集者組織委員会が共催で「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」についての教育研修会が開催され、委員長の通山が出席した。
- ②本学術集会において倫理委員会主催のシンポジウム「臨床検体の取扱いと倫理指針〜どのように対応すべきか〜」が開催される。検査部をめぐる研究倫理への対応について現状と今後の方向性を議論予定。

10) 利益相反委員会（委員長：佐藤尚武、担当理事：諏訪部章）

- ①医学研究の利益相反（COI）に関する細則および COI 申告書式を作成した。
- ②2015 年 5 月 15 日（金）開催の「研究倫理教育研修会」（日本医学会主催）に、委員長（佐藤）が出席した。
- ③第 62 回日本臨床検査医学会学術集会より抄録提出時に COI 自己申告書の提出を義務付けた。
- ④日本医学会の診療ガイドラインに関するアンケート調査に回答した。

11) ガイドライン作成委員会（委員長：古川泰司、担当理事：東條尚子）

- ①平成 27 年 5 月 23 日と 9 月 26 日に、委員会が二回開催された。
- ②旧 2012 年版の構成を踏襲・発展させる形で企画が進められた。
- ③章立て決定、執筆依頼、入稿と大幅な遅れはなく進行しており、本年度学術集会時に出版物が用意できる予定である。
- ④刊行後は、旧版と同様に会員他への配付を行うが、無料での WEB 公開は行わない方針が確認された。
- ⑤学術集会会期中 11 月 19 日に三回目の委員会開催予定である。

12) 遺伝子委員会（委員長：宮地勇人、担当理事：横田浩充）

- ①遺伝子関連検査の品質保証に向けて各種ガイドライン普及に向けた方策に関する検討を行った。
- ②DTC等の遺伝子関連検査の新たな動向と課題について取り纏めを行った。
- ③臨床検査振興協議会医療政策委員会「臨床検査の医療政策に関する勉強会」の活動として、ラボ開発検査の品質と保険適用に関する意見交換を行った。
- 健康・医療戦略推進本部（内閣総理大臣が本部長）の下に設置される「ゲノム医療等実現推進タスクフォース」に参加し、具体的な方策の検討する予定（11月から）。
- 第4回一級・第9回初級遺伝子分析科学認定士試験（本学会／日本遺伝子分析科学同学院 共同認定）を実施した。

13) 国際委員会（委員長：村上正巳、担当理事：北島 勲）

- ①2014 年国際学会発表者を対象として 2015 年日本臨床検査医学会国際学会奨励賞受賞候補者を選考し、奥橋佑基氏、黒崎祥史氏、中出祐介氏を推薦した。
- ②2015 年 10 月 21 日～23 日マナド（インドネシア）において 8th Work Conference and 14th Annual Scientific Meeting of ISCPaLM and Regional Scientific Meeting of ASCPaLM 2015 が開催され、関係者が出席した。

14) 医療安全委員会（委員長：吉田 博、担当理事：小柴賢洋）

- ①第 62 回学術集会（2015 年、岐阜）において医療安全シンポジウムが 11 月 21 日に企画されており、テーマは「感染対策から医療安全を考える」である。
- ②医療安全全国共同行動は 2015 年 6 月に、医療安全調査機構は同年 9 月に定時社員総会が開催され、それぞれ医療安全委員長と理事長が出席した。

15) 検査項目コード委員会（委員長：康 東天、担当理事：佐守友博）

- ①2015 年度は、5 回の委員会を開催した。JLAC10 の新規登録を、分析物コード 14 件、測定法コード 1 件、結果識別（固有）コード 19 件、実施した。
- ②臨床検査項目分類コードの改訂（JLAC11）について議論し、原案が作成された。2015 年 11 月に JLAC11 に対するパブリックコメント募集開始。

16) 広報委員会（委員長：小柴賢洋、担当理事：佐守友博）

- ①本学術集会中に第 1 回広報委員会を開催する予定であったが、委員の都合が合わないためメール会議を行う。
- ②学会ホームページの更新については 3 業者の見積もりと仕様書を取って検討した結果、委員会としては株式会社「大成」がベストという判断になった。先の理事会でこの方針は承認を受けた。
- ③11 月 6 日（金）に振興協議会の広報委員会が開催された。
次年度の厚労省の「子供見学デー」の開催計画を策定した。
- ④現在日臨技が開催中の「全国検査と健康展」の中で、19 都府県が臨床検査医による「検査説明・健康相談」を行っている。
共催機関である日本臨床検査専門医会では延べ 40 名の医師が出務している。

17) 新専門医制度広報アドホック委員会（委員長：田部陽子、担当理事：佐守友博）

新専門医制度の開始に向け、専攻医獲得のための広報を行う委員会として、広報委員会の下に設けられた。以下の案件を含め、種々の方策を検討している。

- ①初期研修医および他領域医師に向けて臨床検査専門医の職務内容をアピールする目的で、日本臨床検査医学会ホームページ上に Q&A 方式の広報サイトを立ち上げる準備を行っている。
- ②臨床検査振興協議会による「厚労省霞ヶ関子ども見学デー」(H27.7.29,30)での広報活動に参加・協力した。

18) 臨床検査室医療評価委員会（委員長：海渡 健、担当理事：東條尚子）

各施設の現状を客観的に評価するための参考資料の作成を目的に、全国の検査室の実働状況を評価するためのアンケート調査を企画している。アンケート内容は、経営面からの視点、臨床支援体制からの視点、学問的活動からの視点、検査態勢からの視点などに分けて作成することとし、内容を検討中である。

19) 会則改定委員会（委員長：谷直人、担当理事：米山彰子）

- ①事業年度の末日に 65 歳である理事の評議員任期について定款の改定案を作成し、併せて文字の訂正を行い社員総会に提出。
- ② 同学院からの依頼で臨床検査士資格認定制度規約を検討し、修正案を同学院に提出。
- ③ 各支部の支部規約を見直し、書式を統一するための雛形を作成。

20) 渉外委員会（委員長：安東由喜雄、担当理事：小柴賢洋）

新たな活動はなく、報告は特にない。

21) チーム医療委員会（委員長：諏訪部章、担当理事：米山彰子）

- ①平成 27 年 4 月より臨床検査技師による微生物学的検査の検体採取が可能となったが、その実態調査を目的

とした「今後のチーム医療の在り方等に関する研究（研究代表者 北村聖）」が開始され、本委員会の委員長（諏訪部）が引き続き研究に参加することになった。第1回班会議が10月5日（月）で開催された。

②第62回学術集会にて、シンポジウム11として、「医療従事者間のコラボレーション（パートⅡ）～チーム医療に対する取り組みと検査部に期待すること～」を開催する。

22) 学術集会あり方委員会（委員長：矢富 裕、担当理事：村田 満）

2014年12月に本委員会としての答申書をまとめた。

第62回（2015年）学術集会の期間中（11月19日）に委員会を開催し、再度、学会のあり方を検証・議論し、必要であれば、答申書に修正を加える。

23) 女性支援委員会（委員長：田部陽子、担当理事：山田俊幸）

女性が活動しやすい環境を提供するための方策を調査する目的で、2015年2月に学会員を対象にアンケート調査を実施し、265名より回答を得た（回答率10%）。その結果を日本臨床検査医学会ホームページに掲載した。アンケートで寄せられた意見を今後の活動に生かしていく予定。

24) 研修施設・指導者認定委員会（委員長：村上正巳）

1月1日、7月1日付での新規申請施設および再認定施設の研修施設・指導者についての適否の審査を行い、審議会に報告した。

25) 受験・更新資格審査委員会（委員長：菊池春人）

本年度の臨床検査専門医、管理医の受験・更新資格について審査を行い臨床検査専門医・管理医審議会に報告した。

- ①専門医受験：受験希望者15名について全員を有資格と判定した。
- ②専門医更新：2015年1月1日付の専門医更新者で、2014年度までに必要単位を満たしていたが申請されていなかった専門医2名より更新申請があり、有資格と判定した。
- ③管理医受験：受験希望者34名について、全員の有資格と判定した。

26) 試験委員会（委員長：宮地勇人）

- ①日本専門医機構の整備指針に基づき、臨床検査専門医認定試験の客観性、透明性、公平性を確保するため、試験のあり方の検討を行い、臨床検査専門医・管理医審議会での審議を踏まえ、試験の見直しを順次行っている。
- ②実技試験のあり方と2016年度実技試験の出題方針について検討を行った。
- ③第32回試験（2015年度）について、出題基準、出題範囲の公示を行った。筆記試験に多肢選択問題を導入した。試験実施内容の評価と合否の最終判定を行った。
- ④第33回試験（2016年度）の公示に向けて、認定試験内規、受験者案内文書の修正作業に向けた検討を行った。

27) 2014・2015年度臨床検査専門医認定試験実行委員会（委員長：矢富 裕）

8月1日（土）、2日（日）に、第32回臨床検査専門医認定試験を実施した。

28) 2014・2015年度臨床検査管理医認定試験実行委員会（委員長：東條尚子）

10月11日（日）に、第6回臨床検査管理医講習・認定試験を実施した。

29) 臨床検査専門医制度検討委員会（委員長：木村 聡）

- ①新専門医制度の資格更新の要件を、日本専門医機構臨床検査領域専門医委員会とともに作成、

審議し、日本専門医機構に提出、承認された。

②今後の活動方針を以下のように定めた。

- ・新専門医制度の導入に伴い、現在の学会専門医と臨床検査管理医制度のありかたを議論する。
- ・新専門医のサブスペシャリティのありかたを議論し、実際に各学会との協議を検討するために村上正巳委員を代表とする「専門医資格ワーキンググループ」を立ち上げた。

2. 第 63 回学術集会報告（神戸 2016/9/1(木)～9/4(日)）（村田 満 理事長）

2016年9月1日（木）～9月4日（日）に神戸国際会議場で、小柴賢洋会長（神戸大）のもと、テーマ「臨床検査の連携・協同」で、第32回世界医学検査学会、第65回日本医学検査学会と同時期開催されることが報告され、小柴会長から一言御挨拶があった。

3. 第 64 回学術集会報告（2016/11/14(火)～1/19(日)）（村田 満 理事長）

2017年11月14日（火）～11月19日（日）に国立京都国際会館で、村上正巳会長（群馬大）のもと、テーマ「次世代の医療の進歩への貢献」で、第29回世界病理学・臨床検査医学会連合会議（村上正巳会長）との合同会開催されることが報告され、村上会長の代理の木村孝徳先生から一言御挨拶があった。

4. 第 10 回日本臨床検査医学会特別例会報告（京都 2015/4/13(月)）（村田 満 理事長）

2015年4月13日（月）に、グランドプリンスホテル京都で熊谷俊一特別例会長（神鋼病院）のもと、第29回日本医学会 2015 関西 の分科会として開催された。

熊谷特別例会長からの御礼の言葉、「100名を超える先生方にご来場頂き、無事に終了することができました。これも皆様方のご協力の賜物と、改めまして厚く御礼申し上げます。」が報告された。

5. 2016・2017年度理事、2016・2017・2018・2019年度監事選挙結果について（村田 満 理事長、米山彰子 庶務理事）

2016・2017年度 理事および2016・2017・2018・2019年度 監事選挙において、2015年9月10日発送、10月5日締切、10月6日開票の結果、理事（村上正巳先生、矢富裕先生、宮地勇人先生、東條尚子先生、熊谷直人先生、木村聡先生の6名）、監事（高木康先生）が選出されたことが報告された。

6. 新専門医制度関連事項について（山田俊幸 総務理事、機構臨床検査領域 委員代表）

研修プログラムについては、9月27日に、日本専門医機構に承認された臨床検査研修プログラムを参考に研修プログラムを作成いただき、申請受付は11月頃を予定していること、旧制度の研修施設で、新制度の基幹施設認定を受けた施設は現制度の施設認定を受けたものとみなすこと、ただし、新制度の認定を受けず、実際に研修している専攻医がいる場合は、現制度に認定を受ける必要があること、そして、旧制度での学会専門医受験は、2019年度までに受験することを推奨すること、学会専門医更新は2020年1月付更新までは選択可能とすることが報告された。

7. その他

特になし

IV. 審議事項

1. 2015年度中間報告・2016年度予算案について（諏訪部章 会計理事）

2015年1月1日～6月30日までの2015年度中間実績、2016年度予算案が提示され、昨年との比較により増減がある項目について説明があった。2016年度予算案は、ほぼ例年通りの予算立てとしていることが報告され、承認された。

2. 2015 年度事業中間報告について（米山彰子 庶務理事）

2015 年度事業中間報告があり承認された。

3. 2016 年度事業計画（案）について（米山彰子 庶務理事）

2016 年度事業計画（案）が提示され承認された。

4. 2016 年度からの名誉会員・功労会員・社員（評議員）の推薦について（村田 満 理事長）

名誉会員として、理事会から推薦された 2 名の推薦があり承認された。

登勉先生

佐守友博先生*

功労会員として、各支部から推薦され理事会で承認された下記 10 名が推薦され承認された。

森山隆則先生（北海道支部）

中居賢司先生（東北支部）

野村文夫先生、橋本佳明先生、羽田雅夫先生（関東・甲信越支部）

大倉ひろ枝先生、依藤史郎先生（近畿支部）

市原清志先生、井上裕二先生、杉浦哲朗先生*（中国・四国支部）

（注） 名誉会員となる佐守友博先生*、功労会員となる杉浦哲朗先生*については、現理事のため定時社員総会後の2016年3月27日からとなる。

評議員（社員）として、各支部から推薦され理事会で承認された下記 13 名が提示され承認された。

藤井聡先生（北海道支部）、

古田島伸雄先生、佐藤麻子先生、窓岩清治先生、涌井昌俊先生（関東・甲信越支部）

松下正先生（東海・北陸支部）

井上直哉先生、岡田仁克先生、三枝淳先生、中村文彦先生、（近畿支部）

竹内啓晃先生、柴倉美砂子先生（中国・四国支部）

長谷川寛雄先生、堀田多恵子先生（九州支部）

5. 評議員（社員）再任予定者（2016/01/01）について（村田 満 理事長）

2016 年 1 月 1 日付評議員（社員）の再任手続きは、12 月下旬の評議員審査委員会での審査、審議会後となるが、評議員（社員）の再任には、細則により社員総会の承認が必要であるため、2016 年 1 月 1 日付の評議員（社員）再任予定者 37 名が提示され、再任単位を満たさない場合や辞任された場合は退任となる場合もあることを前提としたうえで承認された。

6. 第 65 回（2018 年）学術集会長について（前川真人 理事長）

2018 年は、第 65 回学術集会長としては、関東・甲信越支部から推薦され理事会で承認された村田満先生が推薦され承認され、村田満先生から一言御挨拶があった。

7. 定款の一部改定について（村田 満 理事長、米山彰子担当理事）

評議員退任後、約 3 ヶ月、理事として在任期間がある場合の対応として、定款の一部改定案「評議員が任期中に満 65 歳に達する場合は、その年の事業年度の末日までとする。ただし、事業年度の末日に満 65 歳の理事は、次の定時社員総会までを評議員の任期とする。」こと、また、規程は規定に改定することが提示され、承認された。

8. その他（村田満 理事長）

2015年度に係る定時社員総会は、2016年3月27日（日）に、学士会館で開催予定であることが報告された。

V. 閉会（前川真人 副理事長）

前川真人副理事長から閉会の挨拶があり、臨時社員総会を閉会した。

2015年度 日本臨床検査医学会 総会だより

日 時：2015年11月20日（金）11：00～12：00

場 所：長良川国際会議場 1F メインホール（第1会場）

出席数：約150名

まず、村田満理事長より挨拶があった。

そして、第62回学術集會長の清島満会長が議長となって議事を進行した。

臨時社員総会と同じ内容の報告がなされた。

その後、表彰式（名誉会員顕彰、功労会員顕彰、臨床検査専門医認定証授与、国際学会奨励賞・学会賞受賞式、）が執り行われた。

前川真人副理事長より挨拶があり総会を閉会した。